

# 令和5年度学校自己評価システムシート (県立川越工業高等学校)

目指す学校像	モノづくりをとおして新たな価値を見出し 新たな時代を創る技術者を育成する
--------	--------------------------------------

重点目標	1 高い志を持って自らの針路を定め、希望の進路を実現する力を育む 2 基本的な生活習慣の確立並びに、果敢に高い目標にチャレンジする強い精神を育む 3 「社会に開かれた教育課程の実践」をとおして、キャリア教育を推進する
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	8名
	生徒	6名
	事務局(教職員)	17名

学 校 自 己 評 価						
年度評価(2月1日現在)						
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	<b>【現状】</b> ・生徒はやさしく穏やかであり、授業も円滑に行われている。 ・進学者が増加傾向にある。  <b>【課題】</b> ・進学希望者をはじめ、継続教育に対する生徒の高い志を育成する必要がある。 ・生徒の自己実現のために工業技術や一般教養など幅広い知識と技能を身につけさせる必要がある。 ・学科間連携を推進し、学科を越えて生徒が互いに交流し学び合う機会を提供する必要がある。	・進路実現100%に向けたキャリア教育の実践  ・学科を越えた学び、学科横断型プロジェクトをとおして、生徒が高い志を抱く教育の実践	①生徒に好奇心や達成感を抱かせる課題や学習内容、学習方法等を工夫し、各学年において生徒が自ら針路を定められるよう段階的な進路指導を実施する。  ①DX時代に対応できる力を身につけさせるため、ICTを積極的に活用するとともに、学科を越えて生徒が互いに交流し、学び合える学科間連携を積極的に行う。 ②指導と評価の一体化を目指し、主体的・対話的で深い学びを引き出す授業に取り組む。	①生徒アンケートにおいて、進路未定者数が前年度より減少したか。  ①生徒アンケートにおいて、授業に取り組む姿勢が前年度より向上したか。	①進路指導部では、計画的・系統的に3年間を見据えた進路説明会を実施できた。就職は、97名中94名(97.0%)が第1希望企業に内定した。前年度より5.0%増加した。2回目の受験で3名が合格、今年度も就職内定率100%であった。進学は、140名中大学が43名(30.7%)、短大が6名(4.3%)、専門学校が89名(63.6%)であった。進路未定者は6名で前年度より9名減少した。  ①生徒の授業アンケートでは、共通科目は73.8%、専門科目は69.5%の生徒が「授業に満足」と回答しており、前年度より、共通科目は0.7%減少したが専門科目は1.4%増加した。 ②ICTを積極的に活用したVR・ARプロジェクトやプロジェクトマップなど新しい取組をとおして、学科や学年を越えた連携により、生徒が主体的・協働的に課題解決に取り組む、より高い目標に果敢にチャレンジする教育活動を実践した。また、第8回五科合同課題研究発表会を開催し、学科を越えて生徒が互いに交流し、学び合える学科間連携を行った。	A  A
2	<b>【現状】</b> ・挨拶・身だしなみ・清掃など、生徒の基本的な生活習慣は良好である。 ・部活動や生徒会活動などが、主体的・協働的に行われている。  <b>【課題】</b> ・生徒一人一人が自己実現に向かって、高校生活の目標を定め、さらに果敢にチャレンジし、自己を高め、前向きに取り組ませる必要がある。 ・資格取得やコンテスト等へのチャレンジ、部活動や生徒会活動など生徒主体の活動を支援するとともに、自校に誇りを持って取り組ませる必要がある。	・生徒の心身の成長と規範意識の向上  ・資格取得やコンテストに向けた指導と部活動や生徒会活動、地域交流・ボランティア活動等による体験活動の充実	①組織的な登校指導や声かけ運動、身だしなみ指導等を実施する。  ①資格取得やコンテスト等に関する情報を積極的に提供し、資格取得等に向けた特別講座等の実施や部活動、ボランティア活動等を通して生徒の多様な体験活動を支援する。	①遅刻・欠席者数が前年度より減少したか。また、生徒アンケートにおいて、「あなたや周りの人は、決まりを守っていますか」が前年度より向上したか。  ①資格取得数やコンテスト等で活躍した生徒数、地域交流・ボランティア活動への参加数、また、生徒アンケートにおいて、「部活動は満足していますか」が前年度より向上したか。	①生徒アンケートの「あなたや周りの人は、決まりを守っていますか」は、93.8%の生徒が「決まりを守っている」と回答しており、前年度より1.2%増加した。生徒の挨拶や身だしなみは良好である。 ②体育祭は保護者に公開して開催、工業祭は4年ぶりに一般公開した。また、保護者への実習公開や授業公開等を開催し、122名の保護者が参加した。  ①ジュニアマイスターはゴールド9人、シルバー4人、ブロンズ6人で合計19人が表彰となった。埼玉県高校生専門資格等取得表彰では24名が表彰となった。ものづくりコンテスト埼玉県大会木材加工部門で優勝し、関東大会では4位入賞した。国家資格の「第三種電気主任技術者」に1名、「第一種電気工事士」に17名が合格するなど高い目標に果敢にチャレンジする生徒が増加した。 ②生徒アンケートの「部活動は満足していますか」では、73.8%の生徒が「部活に満足」と回答しており、前年度より2.3%増加した。	A  B
3	<b>【現状】</b> ・地域と連携した教育活動が行われている。 ・日々の教育活動をホームページ等により情報発信している。  <b>【課題】</b> ・地域社会との連携を強化し、社会に開かれた教育課程の実践を推進する必要がある。 ・県外、海外等の連携先を開拓し、グローバルな交流を進め、キャリア教育を推進する必要がある。 ・HPの更新頻度を向上させる等、本校の魅力を積極的に発信する必要がある。	・地域社会と連携した教育活動の実践  ・学校ホームページの更新等による積極的な魅力発信と情報発信	①地域自治体や企業、大学等と連携した取組を積極的に実施する。  ①ホームページに日々の教育活動を積極的に発信し、保護者や中学生のニーズに沿った、きめ細やかな情報提供を行う。	①地域社会等と連携して、学びの場やキャリア教育を推進する場を生徒に提供した件数が前年度より向上したか。  ①本校ホームページへの投稿件数及び閲覧件数が前年度より向上したか。 ②保護者アンケートによる学校への満足度が前年度より向上したか。	①地域と連携し、「かわごえ産業フェスタ」、「かわつキッズまつり」、「新河岸わくわくフェスティバル」などへの参加、川越青年会議所と連携した「喜多院夢だるまっぶライブアート」、「川越城本丸御殿プロジェクトマップ」等、地元企業と連携した文具の商品デザイン等、地域や企業と連携した取組を積極的に実施し「社会に開かれた教育課程の実践」をとおしてキャリア教育を推進した。  ①ICT教育部が中心となって、ホームページの更新を組織的に行い、学科の動画配信や学校ホームページを積極的に更新し情報発信に努めた。 ②各学年の学年だよりや保健室だより、長期休業前の生徒指導部からのお知らせを発行している。保護者アンケートでは、「川越工業高校に入学して、充実している」と95.9%の保護者から回答があり、前年度より1.8%増加した。	A  A

学校関係者評価
実施日 令和6年2月1日
学校関係者からの意見・要望・評価等
①進路状況は、就職・進学ともに前年度より、第1希望企業の内定数や大学進学者数が増加した。進路未定者も前年度より減少しており、生徒の進路意識の向上と生徒が自ら針路を定められるよう段階的な進路指導が実践されている。  ①生徒の授業アンケートでは、約7割の生徒が「授業に満足」と回答し、意欲的に取り組んでいることがわかる。先生方の丁寧な指導が、生徒の学習意欲を高めているものと思われる。 ②授業で学科間連携の取り組みを行うことが大切である。現状ではイベントや行事でしか学科間連携の取り組みがないので、日常から学科間連携や交流の推進を図っていただきたい。
①前回の評価懇話会であいさつについて問題提起したが、あいさつが活発になった。気持のよいあいさつ習慣が皆に定着することを願っている。  ②体育祭や工業祭等の学校行事を保護者に公開し実施できたことや保護者への実習公開や授業公開を実施できたことは、生徒の成長になったと思う。楽しく取り組んでいる生徒の様子に安心した。
①コンテストでの活躍や難関資格に合格者を出していることは、生徒に高い目標に向かって努力することやチャレンジすることを日々の学校生活で指導しているからこそぞとと思う。専門教育の充実とともに志や職業意識の向上に向け、今後も指導していただきたい。
①働き方改革はすべての業種にとって喫緊の課題である。地域連携や社会に開かれた教育課程の実践は本校にとって重要な取り組みであり、地元企業、地域や社会と連携した取組を今後も積極的に推進しつつ、働き方改革を推進し、先生は元気な先生として生徒に接していただきたい。  ①ホームページは、トピックスも多く、動画配信も増え、見る側にとっても興味深いものが多いと思う。  ②あいさつ運動に生徒が中学校に出向き、元気なあいさつや工業祭をアピールするのも学校の魅力発信や情報発信に効果がある。